



# パッテロー通信



《学校の教育目標》 心豊かでたくましい実践力をもつ子

No.18

令和元年 7月 1日

## 受動から能動へ

校長 加藤 辰司

6月8日（土）の土曜参観には多数の保護者の方にご参観いただき、本当にありがとうございました。本年度は、学校行事及びPTA活動の内容の精選のために従来別々に行っていた芸術鑑賞教室とPTA公演会を一緒にして実施し、東濃実業高校吹奏楽部の演奏を鑑賞しました。その結果参観した保護者の方からは、ほぼ全員が大変良かったという非常に高い評価をいただきました。それも演奏が本物であったからこそその評価であると考えています。出していたいただいた評価や感想は、別紙で報告させていただきます。ご協力ありがとうございました。



東実吹奏楽部の演奏

子どもたちが本物に触れることは、それだけで十分にたくさんの学びを得られます。今回の演奏会でも次のような感想を持った子がたくさんいました。

（前略）歌を歌っているときは、全員がニコニコでそれを見た私もなんだか楽しくなりました。とにかく演奏しているときもとっても楽しそうで「一緒にやってみたいな」と思いました。（後略）

「楽しんでもらいたい」という吹奏楽部の生徒たちの思いが伝わり、自分たちが笑顔になれたという実感を持てたことがわかります。しかし、このように様々な学びや感動を与えてくれる本物に触れる体験ですが、往々にして「させてもらう」という受け身になりがちです。その受け身の部分を何とか自ら動くことで感動を得られるようにできれば、さらに本物に触れる価値は高まるはずです。

例えば今回の演奏会であれば、手拍子すべきところでは手拍子をし、静かに聴くべきところでは静かに聴き、一緒に体を動かすときには一緒に動かす。これらを何となく流れの中で行うのではなく、逆に「演奏者に笑顔で演奏してもらえようようにしよう」と意識して参加できるようにしたらどうでしょうか。つまり演奏する人たちの笑顔をつくるためにより積極的に参加しようという意識を持たせることができれば、さらに価値ある体験となるのではないかと考えるのです。そしてそれが自らの喜びにつながることを実感することで「パッテロースピリッツ」をさらに育てることができるはずです。

前号でお伝えした挨拶でもそうですが、同じことを行ったとしても「意識」をするかしないかで得られる感動やその後の行動は大きく変わってきます。今後の活動においても子どもたちに受け身ではなく、自分がどう能動的に関わっていくかを意識させながら取り組んでいきたいと考えています。

## 6月の「パッテロー活動」

### ◆修学旅行



日本古来の歴史に触れ、仲間の良さを再発見することができた、楽しく充実した修学旅行となりました。特に今年度は「一人でも取り組む力をつける」ことをめあてて活動し、自信をつけました。修学旅行で身につけた力を授業やあいさつの姿で示すことができます。

### ◆土曜参観日



毎年この時期に「芸術鑑賞教室」を実施していましたが、今年度はPTA主催「教育公演会」と兼ねて「東濃実業高校吹奏楽部による演奏会」を実施しました。大人も子どもも楽しい時間を過ごすことができました。



5・6年生「親子情報モラル教室」では、情報モラルを学び、安全に活用する力を身につけることをねらって実施しました。

今年度は大脇克敏さんを講師に救命法講習会を実施しました。保護者の皆さん、大変熱心に参加いただきありがとうございました。



授業参観では国語や算数、社会科の授業を見ていただきました。他者意識を持ち、説明することを通して、教科の力をつけています。



## ◆なかよしペア読書



高学年が低学年に読み聞かせを行いました。高学年はこの日のために低学年が喜びそうな絵本を選び、練習しました。当日、低学年は興味津々に読み聞かせに参加していました。バッテリースピリッツが最も表れている活動の一つです。

## ◆石川探検【4年】

今年度も可茂土木事務所の方にご協力いただき、石川で生き物の採集と観察を行いました。この様子は7月4日のCC ネットでも放映されます。



## ◆公開授業【5年】



5年生算数「図形の角の大きさ」の学習の様子を全職員で参観しました。4～6年生算数は少人数指導ですが、どちらのクラスもわかるまで粘り強く取り組む姿がみられました。また、隣同士、全体の場で、これまでに習ったことを根拠に説明する力をつけています。

## ◆認知症サポーター養成講座【5年】



高齢者の方のよさが児童の意見から多く出る等、高齢者の方への理解を深めることができました。

## ◆ほっとカフェ【5年】



高齢者の方と楽しく交流することができました。お互いに笑顔で交流している姿が印象的でした。

## ◆あいさつ運動

高める視点	自己評価	
	取組前	取組後
誰にでも	67%	86%
いつでも	70%	85%
大きな声で	62%	89%
目を見て	74%	88%
笑顔で	61%	77%

児童会運営委員会が企画しあいさつ運動を実施しました。校門前では遠くから元気なあいさつができる子が増えています。一方で、見守りボランティアの方の評価から、通学途中のあいさつは自己評価ほど高まっていないこともわかりました。

